

令和5年12月15日（金）

## 本日の芸術鑑賞会は奄美三線と島唄です

三線は弦楽器の一種で、沖縄県と本県の奄美群島で用いられています。中国福建省生まれの弦楽器「三弦」が原型のようです。

この三線は、15世紀以降、沖縄県や鹿児島県奄美群島で独自に発展しました。三線は音を出す胴の部分にへびの皮を張り、胴の尻から棹の先に向けて3本の弦を張り渡して、弦を弾いて鳴らします。

沖縄県では「工工四（くんくんしー）」という独特の楽譜が用いられています。現在では民謡の他にも、ポップスなど様々なジャンルで用いられています。1992年に発売された三線を前面に押し出したロックバンド・THE BOOMの「島唄」は100万枚売上のミリオンセラーとなりました。

奄美群島の「奄美三線」は、沖縄とは違う三線です。沖縄三線は白い弦で低い音ですが、奄美三線は黄色い弦でやや甲高い音がします。沖縄三線は爪のような撥(ばち)を使いますが、奄美三線は竹の撥(ばち)です。沖縄三線は工工四という楽譜ですが、奄美三線は数字の楽譜です。演奏法も沖縄三線は下にダウンストロークのみですが、奄美三線はアップストロークが主です。左手の抑え指は沖縄三線は薬指を使いませんが、奄美三線では中指を使いません。このように、同じ三線でも沖縄と奄美では異なります。

今日の芸術鑑賞で奄美三線を演奏し島唄を披露していただくのは、川畑さおりさんです。そして、喜界島出身で鹿児島大学教育学部4年生の嘉村美里さんも一緒に出演されます。

川畑さんは2008年に、シマ唄を中心に収録した『花』でCDデビューし、翌2009年の第30回奄美民謡大賞で大賞を受賞されました。2012年には日本民謡ヤングフェスティバル全国大会でグランプリに輝き、2013年には伝統芸能を受け継ぐ将来有望な新人として高円宮殿下記念「地域伝統芸能奨励賞」を受賞されました。

2012年から、離島便の航空会社である日本エアコミューターの機内BGMに川畑さんの楽曲と奄美の島唄が使われています。

川畑さんは、現在喜界島の小学生に島唄を伝える活動を継続されています。喜入中学校では、3年前の芸術鑑賞でも川畑さんをお招きしましたので、今回で本校2回目の演奏となります。喜界と喜入は喜びの字が重なり言葉の響きが似ていますね。本日の舞台を大変楽しみにしています。